

3) 住環境に即した新製品の開発

藤 靖之、江口佳孝、佐藤 彰

有田エクステリア研究会では「チェルシーフラワーショー(英国)」出展プロジェクト「Team SAGA」を発足させ、足掛かりとして「ガーデニング・ワールドカップ・フラワーショー(ハウステンボス)」へ出展し、金賞および部門賞受賞を経て、事前審査により「チェルシーフラワーショー(英国)」への出場権を獲得した。研究会でのガーデニングショー出展に際し、本研究では、試作開発、製品開発支援を行った。

1. はじめに

ライフスタイル、特に食習慣の変化に伴う和食器離れ、または食器離れの中で食文化も変化、多様化している。

家事労働のもっとも大きい部分である調理、食後の食器洗いなどを簡素化し、家事労働自体を減らしていく傾向が若年層世帯に多く見られ、これらの世帯を中心に家庭内で使用される食器のアイテム自体が減少し、また偏っている傾向がある。反面、産地としては食器以外の分野で活路を見出せる陶磁器製品の開発が必要であり、産地製品の多様化に資することを目的とした食器外の製品展開を図る検討をした。

陶磁器製品は、屋外では他の素材にくらべ耐候性にすぐれていることから、建材や公共サイン、戸建住宅などエクステリア製品としては適した素材であり、住環境における陶磁器製品の役割は、劣化が著しく少ないことから、コスト面では割高になるものの、長期間その機能性や美観を提供することができる。

写真1は、有田町、陶山神社にある嘉永3年(1850年)製造の社屋欄干であるが、160年の歳月を経た現在でもその当時の色彩を保っている。



写真1 陶山神社社屋の欄干。

2. 試作および支援

2.1 「チェルシーフラワーショー」出展プロジェクト

「Team SAGA」は、佐賀県にある人や物語、歴史、文化など有形・無形の素晴らしい財産を世界に向けて発信していくガーデンプロジェクトとして2013年に発足した。

このプロジェクトは、佐賀の文化を未来に花と緑を添えてつなぐため、ハウステンボスや国内外でのフラワーショーでの作品づくりに豊富な実績を持つガーデンデザイナー・野田珠晃氏が庭をデザインし、「有田エクステリア研究会」の作品、有田焼の魅力を、かつて有田が欧州の貴族たちを魅了したように400年の時を経てチェルシーの庭に表現するものである。「チェルシーフラワーショー」は、英国王主催で、今回101回目を迎える世界で最古のガーデニングショーである。写真2にイメージパネルを示す。

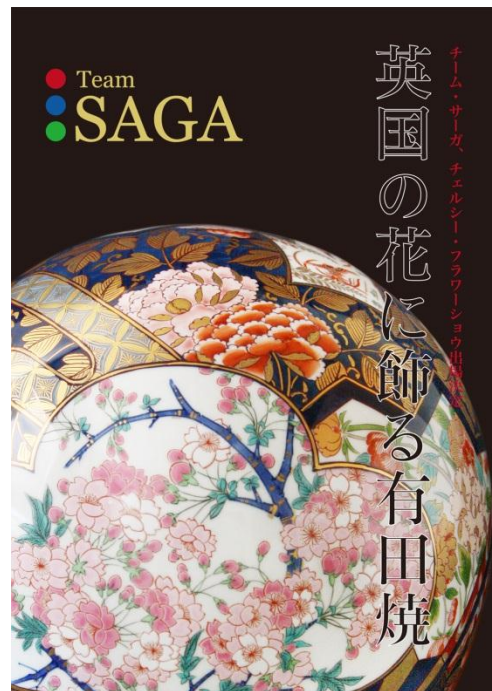


写真2 Team SAGA イメージパネル。

☆ 「Team SAGA」の構成

- ・ガーデンデザイナー
 (株)花水木コーポレーション 野田珠晃
- ・有田エクステリア研究会
 岩尾磁器工業(株) (有)副正製陶所
 (有)しん窯 (株)ヤマトク
 佐賀県陶磁器工業協同組合(事務局)
- ・販売施工
 グランド工房佐賀店
- ・支援機関
 佐賀県窯業技術センター

2.2 ガーデニングショーに向けた試作

「ガーデニング・ワールドカップ・フラワーショー2013(ハウステンボス)」「チェルシーフラワーショー2014(英国)」等のガーデニングショー出展に向け、主に有田焼笠木製品の試作および製品開発支援を行った。

図1、2及び写真3～5に示す。



写真3 モデリングマシンによる切削

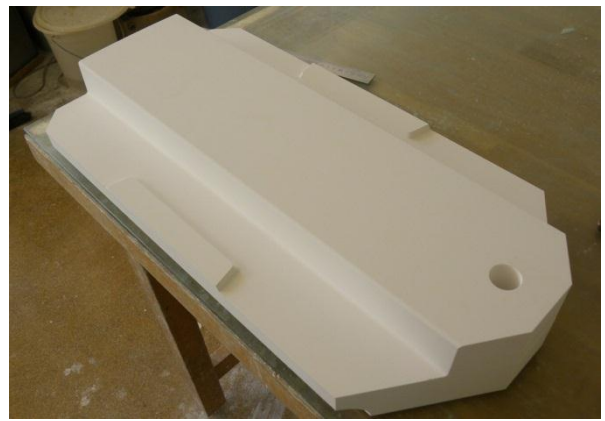


写真4 笠木型

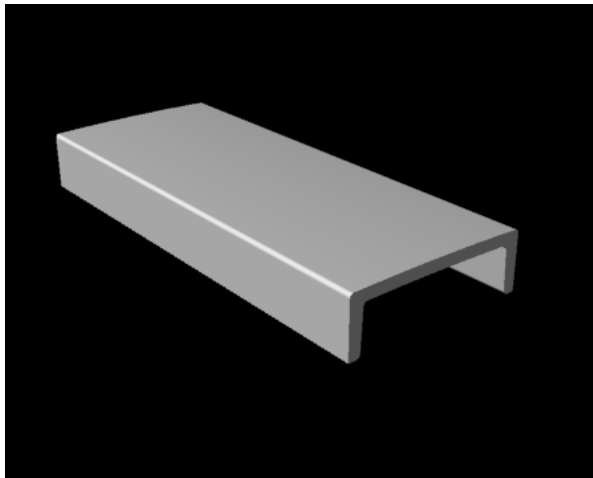


図1 笠木レンダリング

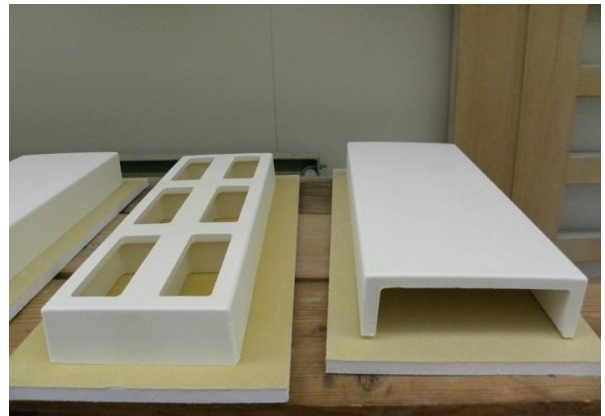


写真5 笠木生地

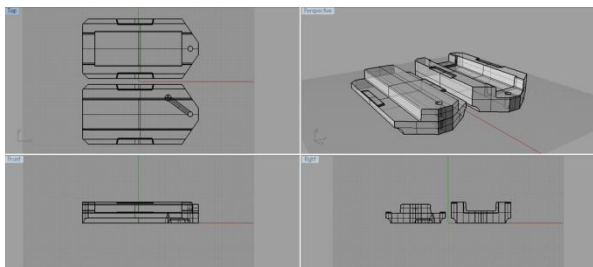


図2 笠木図面

笠木の垂縁は、デザイナー野田氏のオーダーで、50mmとかなり大きな幅となっている。

このことにより、成形と焼成の変形を軽減するために専用の乾燥ハマ、焼ハマを別途製作した。

2.3 国内市場に向けた試作

ガーデンショーに向けた製品の開発と同時に国内市場および見本市等に向け、有田焼のエクステリアアイテムとして、異素材と組み合わせにより庭を彩る小物製品「有田毬子」およびコスト面を考慮し現実的に市場性を配慮した「有田焼笠木」の製作を行った。「有田毬子(ありたまりこ)」の試作を図3、4および写真6、7に示す。

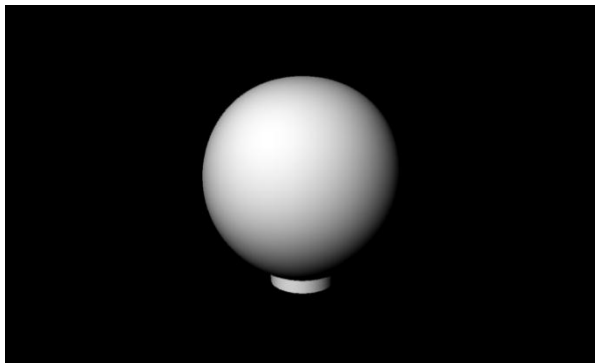


図3 有田毬子レンダリング.

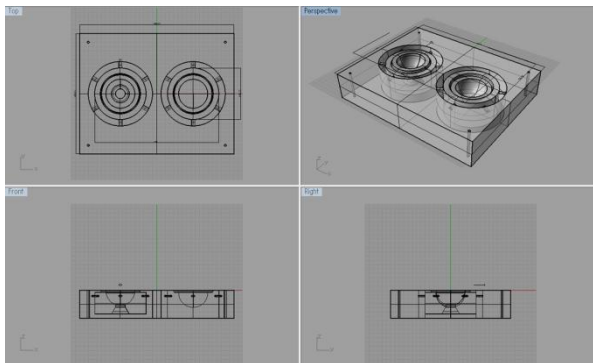


図4 有田毬子型図面.



写真6 有田毬子施工例.



写真7 有田毬子施工例.

有田焼エクステリア景観材 2013～2014 秋冬の新製品としてエクステリアボール「有田毬子」の製作を行った。

写真6、7は岩尾磁器工業㈱により商品化を行ったものである。

2014年度国内エクステリア見本市に向けて(有)副正製陶所により商品化が行われている。

エクステリアボールとしては今後大きさのバリエーションを増やし、海外市場を試みる予定である。

「有田笠木」(量産型)の試作を図5及び写真8、9に示す。

乾燥時、焼成時の変形を抑え、成形性を向上させるため元のイメージを残しながら、量産形態とするために縁垂の幅を25mmまで縮小した形で設計を行い展示用と同様モデリングマシン切削により成型を行った。



写真8 (有)しん窯製作.



写真9 (株)ヤマトク製作

ガーデンショーに向けた有田焼笠木をリデザインし、生産性を向上させ、国内市場向けに商品化を図っているところである。

3. 展示会・展示およびガーデニングショー

3.1 「関西エクステリアフェア 2013」出展

平成 25 年 6 月 11 日～13 日インテック大阪で開催された「関西エクステリアフェア 2013」へのエクステリア研究会からの出展を写真 10 に示す。展示ブースは岩尾磁器工業(株)による。



写真10 関西エクステリアフェア岩尾磁器工業(株)出展

3.2 「ガーデニングワールドカップフラワーショー2013」

「チェルシーフラワーショー」は世界最高の権威を持つガーデニングショーであり、出場資格を獲得するのは非常に困難であるため、他の国際ガーデニングショーで実績をのこし、事前審査に備える必要がある。

そこで、国内では最大規模の国際ショー「ガーデニン

グ・ワールドカップ・フラワーショー2013」(於 ハウスデンボス)へ出展し、足掛かりとした。

金賞およびファミリーガーデン部門賞獲得により、内外の審査員の目に触れることで、「Team SAGA」として事前審査に合格し「チェルシーフラワーショー2014」出展につながった。写真 11～14 に出展の様子を示す。



写真11 「Team SAGA」出展



写真12 キャプション



写真13 水槽



写真 14 笠木 (有しん窯 榊ヤマトク製作)



写真 17 白磁のあかり たけのこのオブジェ

3.3 有田駅 1 番ホーム池周り照明具の展開

JR 九州旅客車「ななつ星」の有田駅停車に伴い、有田町において1番ホーム及び2番ホームの景観改善事業が行われ、有田エクステリア研究会として1番ホーム池周りに「白磁のあかり」による照明具の展開を図った。写真 15～17 に示す。



写真 15 有田駅 1 番ホーム池周り全景



写真 16 白磁のあかり たけのこのオブジェ

写真 15～17 は有田焼照明「白磁のあかり」によるたけのこのオブジェを有田駅1番ホームに設営し、「ななつ星」乗客または、有田駅利用者へ有田町として灯りによる歓迎の意を表現している。

4. まとめ

有田エクステリア研究会として、「ガーデニング・ワールドカップ・フラワーショー」出展、ひいては「チェルシーフラワーショー」出展という漠然とした目標を抱き製作・活動に取り組んできたが、有田焼創業 400 年を前にガーデンデザイナー野田氏との明確な出展プロジェクト「Team SAGA」立ち上げによって双方現実となった。

このことにより、有田焼エクステリア製品を英国で展開することができ、また、国内市場はもとより海外市場を見据えた製品の開発が期待される。

また、「チェルシーフラワーショー」出展物として、更に付加価値を上げ、生産性を考慮した有田焼エクステリア製品の開発に正に取り組みを始めたところであるが、アイテムの拡充、バリエーションの拡大が課題となっている。

今後も展示会・見本市を通し、市場からの要望をフィードバックしながら有田焼インテリア・エクステリア製品のクオリティ向上に繋げていく。